

令和 3 年度 岡本北小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（具体的な児童生徒像など）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の主体性を活かした教育活動を展開するとともに、「安心・安全に生活することのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し互いに高め合える学校」「きまりを守りお互いを尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生命を尊重する心や他者への思いやりの心を中心とした豊かな心、基礎・基本の定着のもと主体的・対話的を実践できる確かな学力の向上、健康の保持や体力増進などたくましく生きる人間力の育成、インクルーシブ教育を基にした特別支援教育の充実に努める。
- (2) ICT化を進めるとともに、児童の学びを支える 1 人 1 台端末を有効活用した潤いのある学校環境づくりに努める。
- (3) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め、教員一人一人の指導力を高めるとともに、校内の研修会の内容を吟味し、組織としてのチーム力の向上を図る。
- (4) 感染症対策を考慮して、学校、地域、家庭との連携を密にし、地域の教育資源や教育力を活用しながら、開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 校内業務の精選に努めながら、児童とのふれあいの時間を定着させ、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育課程は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則等の諸法律、小学校学習指導要領、栃木県教育委員会の指導方針、宇都宮市教育委員会の指導方針、第 2 次宇都宮市学校教育スタンダード、学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 「1 学校教育目標」及び「3 学校経営の方針」「5 今年度の重点目標」に則り、地域や学校、児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7 特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込んだ新たな教育課程を編成する。
- (3) 学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに、教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうたくましい児童の育成
- ・ 本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実

【 学 習 指 導 】

- 言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成
- 「宇都宮モデル」を踏まえた基本的な学習態度の徹底及び創意工夫した家庭学習の習慣化
- I C Tを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着

【 児 童 生 徒 指 導 】

- 自他の人権を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成
- いじめの未然防止及び規範意識や思いやりの心の育成
- ・ それぞれの学級で一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 年間を通した体力向上プログラムの推進
- ・ 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 魅力ある学習課題の設定や1人1台端末などI C Tを有効活用した指導の仕方の工夫により、「分かる」「できる」授業の展開に努める。 ② 感染症対策を考慮しながら、効果的なグループ学習を取り入れたり、話し合う必然性のあるテーマで考えを交流する場を設定したりすることで、児童が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながら学びを深める機会を確保する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方策について研修する機会を充実させる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.2%であり、指標の90%を上回った。 ・ I C Tを活用した授業を意識的に取り入れたことが、児童の意欲や理解に効果的であった。また、感染症対策を考慮する点からも、効果的なグループ学習や必然性のある話合いの場の設定が意図的に行われ、児童の学びを深める機会の確保につながった。 【次年度の方針】 ①, ②, ③ともに継続する。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、が協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 教職員が日々の生活の中で善い行いやがんばっている児童を率先して見つけ、情報を共有し合う。また、掲示物のコメントやお便りを通して児童のよさを発信し、自己肯定感を高める。 ③ 道徳科の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.7%であり、指標の85%を上回った。 ・よい行いや頑張っている児童について付箋紙等で具体的な行動を共有することは、児童の自己肯定感の向上につながっている。また、言われた人が嬉しくなる言葉、「ふわふわ言葉」を各学級で作成・掲示し、折に触れて指導することで、児童の意識づけを行ってきた。 【次年度の方針】 ①②③継続。 ・②に、「ふわふわ言葉」の実施を加える。今後も、「きらりん」を有効に活用して、児童が協力し合う場を設ける。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合っ、自ら学級のきまりやマナーをつくるといった、主体的な取組を推進する。 ② 毎月「ふりかえりタイム」を設定し、きまりやマナーについて自己評価をしたり、生活目標の達成状況等について校内掲示板を活用して共有するなど、全職員共通理解の下、継続的に指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は90.5%であり、指標の85%を上回った。 ・学習や生活の約束の内容について、懇談会等で保護者と共有したことが効果的だった。また、「ふりかえりタイム」において定期的に自己評価させたことが、きまりやマナーの意識化につながった。 【次年度の方針】 ①②ともに継続する。 ・①については、約束の内容だけではなく、意義についても、児童の実態や発達段階に応じて考え、理解する機会をもつことで、規範意識の向上を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体のアンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 85%以上	① <u>古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行うとともに、状況に応じた黙礼の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。</u> ② 学級懇談会や学校・学年だより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えらるとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は94.3%、保護者は85.1%で、いずれも指標の85%を上回った。 ・コロナ禍のため、古里地域学校園や地域協議会と連携したあいさつ運動はできなかったが、校内で時間を分散したあいさつ運動を行った。振り返りカードを活用して、家庭にも啓発できた。 【次年度の方針】 ①②ともに継続。 ・状況に応じた会釈などの多様なあいさつについて、考える機会を設けられるようにする。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 85%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会や認め合える機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。 ② 道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」などにおいて、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。 ③ 児童が目標をもち、達成に向けて取り組んでいる様子を、各種たよりやホームページ等で保護者に発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は91%であり、指標の85%を上回った。保護者は80.2%であり、指標の85%を下回った。 ・昨年度より様々な活動や行事を実践することができ児童は目標をもって粘り強く取り組むことができた。それぞれの活動で活動内の精選や振り返り等を実施し改善ができた。 【次年度の方針】 ①②③ともに継続。 ・様々な活動の実施に当たって、学年での共通理解を図り児童及び教職員の振り返りを行うなど、工夫していくことが必要。 ・③については、保護者や地域へ活動の様子の発信方法を工夫して、伝えるようにする。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →保護者 90%以上	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導する。 ② 規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム、動画等の利用時間、睡眠時間等について日常的に指導する。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危機を予測し、自らの命を守る判断力を育てる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は94%、保護者は90%で、いずれも指標の90%を上回った。 ・①③保健だよりや食育だより、ホームページ等を通じて周知を図ることができた。また、計画的に避難訓練を実施し、発達段階に応じて指導を行ったため、効果的であった。 ・②高学年になるにつれ利用時間が伸びたり、就寝時間が遅くなったりなど生活の乱れもある。今後も、家庭と共通理解を図りながら指導を進めていく必要がある。 【次年度の方針】 ①③ 継続。 ・②今年度はコロナ等で実施できなかったが、高学年を対象とした講習会を授業参観等で家庭も巻き込んで行うなど、手立てを工夫して取り組む。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →保護者 80%以上	① 授業や係・当番活動、委員会活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。【A5①再掲】 ② 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は91%であり、指標の85%を上回った。保護者は80.2%であり、指標の80%を上回った。 ・キャリアパスポートの活用が不十分だった。家庭への発信が年1回だったため、家庭の理解が不十分だったので啓発の方法や回数を考える。 【次年度の方針】 ①②ともに継続。 ・②については、キャリア教育の年間指導計画の見直し考える。キャリアパスポートの効果的な活用方法について検討していく。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 →児童 90%以上 →教職員 90%以上	① 外国語科及び外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、気持ちや考えを表出し合えるようにする。 ② A L Tと連携し、学年の実態に応じた外国語科及び外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は85.8%、教職員は80%で、いずれも指標の90%を下回った。 ・A L Tと連携して授業を構成することができた。また、学年の発達段階に応じた英語を使ったコミュニケーションに個人差が見られた。 【次年度の方針】 ①、②ともに継続する。 ・①については、各学級配置の外国語についての指導資料を活用し、コミュニケーションをとるための英語の表現方法を児童が習得できるようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 →児童 80%以上	① 宇都宮学との関連を図り、社会科における市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等の充実に努める。 ② 教職員自ら、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等についての理解を深めるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は83.4%であり、指標の80%を上回った。 ・①宇都宮学も始まり、少しずつ浸透しつつある。しかし、保護者や教職員の評価を見るとまだまだ十分ではないと考えられる。 【次年度の方針】 ①継続。 ・地域を学ぶ学習をとおり、郷土への愛着と誇りをもてるようにするとともに、保護者にも学習の様子を発信していく。 ・②職員研修の機会を設ける。
A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① I C T機器や図書資料を活用した授業を意図的、計画的に行い、児童が必要感をもってそれらを活用できるようにする。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は92.1%、教職員は100%で、いずれも指標の85%を上回った。 ・タブレット端末や図書資料の活用が図れた。また、読書マラソンカードの活用や朝読書等、読書活動の充実も図ることができた。 【次年度の方針】 ②、③ともに継続する。 ・①については、I C T機器の活用について、調べ学習のツールとしての活用に加え、ジャムボードやスクールタクト等、授業での活用をさらに推進できるようにする。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 道徳科の授業において、日常生活との関連を図ったり、体験的活動を取り入れたりすることで、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A 2②再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実に努める。【A 2③再掲】 ③ 生活科や総合的な学習の時間等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設ける。その際、感染症防止対策に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.7%、教職員は92%で、いずれも指標の85%を上回った。 ・道徳科の授業で考えたり、生活科の昔遊び、総合的な学習の時間の活動などを通して、地域の方々との関わりをもたることができた。地域の高齢者へ手紙を書く活動を地域学校園で行い、高齢者をいたわる気持ちが高まった。 【次年度の方針】 ①②継続。 ・③感染症対策に気を付けながら、意図的に高齢者と交流する機会を設ける。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 →教職員 85%以上	① 生活科や総合的な学習の時間において、SDGsを意識した授業に努めるとともに、職員研修等で意識の向上を図る。 ② 東日本大震災をはじめとする災害に関する内容を授業に取り入れ、防災への意識を高める。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 【A2③再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答率は88%で指標の85%を上回った。教職員は56%で指標を下回った。 ・①教科書にSDGsについて掲載されたり、テレビで取り上げられたりするなど触れる機会が増えたこともあり、児童の意識が向上してきたと思われる。 B 【次年度の方針】 ①③継続。 ・①SDGsについて、教職員の意識をより高め、指導に生かしていく。 ・②防災だけでなく、エネルギーや環境問題等について関心を高められるような取組をしていく。
B1 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自のアンケート「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」における肯定的回答 →児童 90%以上	① 学級において、日常の場面を捉えて協力することの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、協力して活動する場を意図的に設ける。 【A2①再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答率は95.9%で指標の90%を上回った。 ・日常の場面や道徳を通じて指導を行うことで、協力・協調の態度が育まれてきた。 B 【次年度の方針】 ①②継続 ・児童が協力して活動できる取組を意図的に設定し、協調性を高めていく。
B2 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値指標】 独自のアンケート「私は、宿題や自主学習を計画的に行っている。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は指標と同じ85%であった。保護者は76.1%で、指標の80%を下回った。 ・家庭学習カードを活用し、学級懇談会や学年だより等で定期的に啓発を図れた。 B 【次年度の方針】 ①、②ともに継続する。 ・①については、自主学習のやり方や家庭での学習時間などを児童にきちんと示し、習慣化を図る。 ・②については、保護者への定期的な啓発を継続するとともに、よい自主学習の例を提示できるようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 特別な支援が必要な児童に関する情報交換を日常的に行うとともに、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心として、特別支援委員会やケース会議等において共通理解を図り、組織的な指導に努める。 ② 特別支援学級の児童や通級児童等について、個別の支援計画を作成し、合理的な配慮を伴う指導に努める。 ③ 全児童に対して全教職員が共感的理解に基づく指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は96%で、指標の85%を上回った。 ・①②③を実施した。必要に応じてケース会議を開き、児童の情報共有に努めた。 【次年度の方針】 ②③継続。 ・①「ミニケース会議」として、臨機応変に児童の情報を共有する場を設け、早め早めの対応を心掛ける。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会、帰りの会、道徳科の授業、学級活動などを通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心がける。 ② いじめに関するアンケート調査、「なんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議やブロック会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、緊急時にはいじめ対策委員会を実施する等組織的に対応する。 ③ 全教職員が自らの人権感覚の醸成に努めるとともに、それぞれの立場でいじめの認知、対応に積極的に取り組む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は99.2%で、指標の90%を上回った。保護者の肯定的回答率は68.3%で、指標の90%を下回った。 ・①②③実施した。いじめゼロ集会は感染症防止対策のため実施できなかったが、毎月行っているアンケートなどを活用し、早期発見に努めた。 【次年度の方針】 ①②③継続 ・いじめゼロ集会については、ビデオで放送するなど、感染症防止対策をしながらでもできる内容を検討する。 ・いじめに繋がる行動に対して、教師が毅然とした態度で対応することで、学級や学校全体に、「いじめは絶対に許されない」ということをアピールしていく。 ・各種たより、懇談会等で、学校での取組を保護者に丁寧に説明し、連携を図っていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う場をつくってくれている。」における肯定的回答 →児童 85%以上	① 児童が認め合える場を意図的に設定するとともに、教職員も認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。 ② 「なんでも相談」、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見に努めるとともに、不登校の兆候が見られる児童に関して日常的に情報交換を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は94.8%で、指標の85%を上回った。 ・①帰りの会等で、友達のよいところなどを発表する機会を設けたことで、児童が認めあえる場を設定できた。 ・②実施できた。 【次年度の方針】 ①継続する。 ・②不適応傾向のある児童については、全教職員で共通理解をし、学校全体で支援していく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 外国人児童や外国で生まれ育った児童について全教職員で共通理解を図り、実態に応じた指導を行うとともに、児童が互いの違いを認め合いながら生活できるような日常的な指導に努める。 ② 日本語指導ボランティアの活用や、かがやきルームでの対応を行うとともに、家庭との連携に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は96%で、指標の85%を上回った。 ・①②実施した。 【次年度の方針】 ①②継続する。 ・必要に応じて日本語指導ボランティアやかがやきルームを活用し、児童が安心して学習できる環境を整える。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」における肯定的回答 →児童 90%以上 保護者 90%以上	① 学校行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、児童の話をよく聞いたり児童に声をかけたりするなど、認め、励ます指導に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は91.1%で、保護者は93.2%で、いずれも指標の90%を上回った。 ・昨年度より様々な活動を実施することができ、児童の自己肯定感が高まったと考えられる。 【次年度の方針】 ①②ともに継続。 ・活動を盛り上げる雰囲気づくりの実践。児童のよさや活動のよさを振り返る場の設定を工夫していく。 ・全教職員が共通理解のもと情報を共有し、自己有用感のもてる学校づくりに努める。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 →児童 85%以上 保護者 85%以上	① 個の特性や能力に応じた支援を工夫するとともに、T・T、少数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。 ② ICT等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等に配慮した授業展開を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は97.3%で、指標の85%を上回った。保護者の肯定的回答率は78.8%で指標の85%を下回った。 ・個の特性や能力に応じた支援や、単元に応じた指導の工夫を心がけることができた。ICT機器や学習形態の工夫が児童の学びの充実につながった。 【次年度の方針】 ①、②ともに継続する。 ・ねらいを明確にした、わかりやすくきめ細かな授業を工夫することで、基礎・基本の確実な定着を図り、児童の学力向上やICTの効果的な活用、対話を生む学習等、よりよい授業作りに努められるようにする。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は76%で、指標の85%を下回った。 ・見通しをもった活動の実施ができず時間的にゆとりがないことがあった。 【次年度の方針】 ①②ともに継続。 ・年間計画をもとにした、見通しをもった計画校務分掌の見直しを図る。 ・学年会やブロックでの話し合いの場や時間の確保。活動の実践の振り返りを行いデータ及び学年ファイルを活用し次年度に活かす。 ・職員相互の業務内容を理解し、コミュニケーションを図りながら協力し合える体制づくりに努める
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 →教職員 85%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化を図るとともに、月1回のリフレッシュウィークの実践など、適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理に努め、作業効率を上げる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は64%で、指標の85%を下回った。 ・行事等で計画の通りに実践することが難しく、変更となることもあり、時間にゆとりがもてないことがあった。 【次年度の方針】 ①②③ともに継続。 ・学年会を実施し共通理解を図る。 ・校務分掌において、割振りや協力するなど工夫して実施。 ・教材フォルダの活用や有効活用するための発信をする。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体のアンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」における肯定的回答 →児童 80%以上 保護者 80%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を行い、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、道徳科部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は78%、保護者は75.6%で、いずれも指標の80%を下回った。 ・コロナ感染症の予防のため活動が制限され、実施が難しいものがあった。 【次年度の方針】 ①②ともに継続。 ・活動を保護者に発信する機会を取る。 ・6年生の乗り入れ授業・宮チャレ・あいさつ運動など活動の様子を、学年だより等を活用し保護者に発信する。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 85%以上 →地域住民 85%以上	① 地域協議会において、学校経営方針や課題となっている事案について積極的に説明し、地域住民の意見を反映させるとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。 ② 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を中心に見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。その際、感染症防止対策に努める。 ③ 取り組みの様子を各種便りやホームページで発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は84.4%で、地域住民の肯定的回答率は83.3%でいずれも指標の85%を下回った。 ・コロナ感染症の予防のため、書面開催が多かった。工夫して実施できた活動もあった。 【次年度の方針】 ①②③ともに継続。 ・対面にこだわらず、資料、ビデオ、リモートの等の活用した教育活動の工夫をさらにしていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 →保護者 90%以上 →地域住民 90%以上	① PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画、実施し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。 ③ 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアの活動を見直したり拡充したりして、より充実した人材・施設の活用を図る。【A22②再掲】	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は84.4%で、地域住民の肯定的回答率は83.3%でいずれも指標の90%を下回った。 ・感染症拡大防止のため、保護者や地域の方が来校する機会や活動の実施が難しいものがあつた。 【次年度の方針】 ①②③ともに継続 ・ホームページを活用し発信活動の様子を発信する。 ・感染症予防をしながら、実施できる活動を選んで取り組む。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 →教職員 85%以上 →保護者 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も環境美化に努める。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等を計画的に実施するとともに、危機管理マニュアルを整備し、災害や不審者侵入等の不測の事態への備え及び、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は96%、保護者は89.7%でいずれも指標の85%を上回った。 ・学校業務や機動班がすぐに修繕を行い、安全に利用することができた。 【次年度の方針】 ①②③継続 ・②清掃については、時間いっぱい清掃し、その後片付け・反省会を行うことを職員が共通認識して清掃指導に当てる必要がある。

	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 →児童 ８５％以上 →教職員 ８５％以上	① ＩＣＴ機器や学習用ソフト・図書資料等の整備に努めるとともに、それらの活用について必要に応じて研修の機会をもつ。 ② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備充実に努める。 【Ａ１０②再掲】 ③ 読書マラソンカードの活用や朝読書の継続、読み聞かせボランティアの活用などにより、児童の読書活動の充実に努める。【Ａ１０③再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は92.1%, 教職員は100%で、いずれも指標の85%を上回った。 ・一人1台のタブレット端末が整備され、学習に活用することができた。また、司書教諭と連携し、学校図書館、及び市立図書館の図書資料の活用が図れた。 【次年度の方針】 ①、②、③ともに継続する。 ・①については、次年度も継続的に研修の機会を設け、ＩＣＴ機器や学習ドリル等の活用を推進できるようにする。
本校の特色・課題等	B3 教職員は、対話的な学びを目指した言語活動を充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に取り組んでいる。 【数値指標】 独自のアンケート「教職員は、児童が主体的に友達と話し合ったり、自分の考えを表現したりしながら学びを深めているような授業づくりを行っている。」における肯定的回答 →教職員 ８０％以上	① 児童の興味・関心を高めるような単元展開や学習課題を工夫したり、教科等の特性に応じ、単元や本時のねらい達成のための言語活動を設定したりする。 ② 自分の思いや考えを安心して表出できる学習集団の醸成に努める。 ③ 学習指導要領で求める資質・能力育成のための授業改善について、積極的に情報収集したり、研鑽を積んだりする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は指標と同じ80%であった。 ・児童の興味・関心を高めたり、本時のねらいを達成したりできるよう、学習課題や言語活動の工夫を図ることができた。また、自分の思いを安心して表現できるよう、学習集団の醸成に努めることができた。 【次年度の方針】 ①、②、③ともに継続する。 ・①については、さらに授業改善に努め、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、引き続き授業改善に取り組めるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営について】

A5「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」A7「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。」において、A5の保護者以外は肯定的回答率は指標を上回った。今後も引き続き、活動の精選や振り返りを図っていくとともに、キャリア教育の年間指導計画の見直しや保護者・地域への発信も工夫していく必要がある。

A17「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」においては、児童・保護者ともに肯定的回答率が指標を上回った。感染症対策で活動に制約を受ける中、児童の自己肯定感を高めるために工夫を重ね、様々な活動を実施することができた。

A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」においては、教職員の肯定的回答率が指標を下回った。感染症対策で日課や行事等が変更になるなど、見通しをもった活動ができず、時間にゆとりをもてなかった。行事の精選や実施方法の改善、校務分掌の見直しやＩＣＴの活用による業務効率化等に努めていくとともに、教職員の適正な勤務時間の意識化に努めていく。

A21～23「小中一貫教育・地域学校園の取組」や「家庭・地域等との連携」においては、各項目とも肯定的回答率が指標を下回った。感染症対策の影響で活動が制限される中、工夫して実施できた活動もあったので、対面にこだわらず、資料やリモート等を活用するなど、実施できる活動に工夫して取り組んでいく。

【学習指導について】

A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」においては、児童の肯定的回答率が指標を上回った。ICTの活用を意識的に取り入れたことが、意欲や理解に効果的であった。また、感染症対策を工夫したうえで、効果的なグループ活動や話し合いの場の設定を意図的に行うことで、学びを深める機会を確保することができた。

A10「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」A25「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」においては、児童・教職員ともに肯定的な回答が指標及び市の平均を上回ったが、GIGAスクール構想を推進していくにあたり、ICT機器の効果的な活用については引き続き研究を進めていく。また、司書との連携により、図書資料の活用の充実が図れた。

A18「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」においては、児童の肯定的回答率が97%と高い数値である一方で、保護者は79%と指標を下回った。個の特性に応じた支援や単元に応じた指導の工夫、ICT機器の積極的な活用等の取組が、児童の学びの充実につながったと考えられる。今後も、取組の継続・改善をすすめ、基礎基本の確実な定着を図っていく必要がある。

【生活について】

A2「児童は、思いやりの心をもっている。」A11「高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」において、児童・教職員ともに肯定的回答率が指標を上回った。各学級で帰りの会等で善い行いを称賛し合ったり、あたたかい言葉遣いの意識づけを図ったりした。今後も、道徳科の授業をはじめ、教育活動全般で人権教育の充実を図っていききたい。

A3「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」において、児童の肯定的回答率が指標を上回った。学習や生活の約束の内容について保護者と共有したことが効果的であった。また、「ふりかえりタイム」において定期的に自己評価をさせてことも意識の向上につながったと考えられる。

○A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」において、児童・保護者ともに肯定的回答率が指標を上回った。感染症対策のため、活動に制限がある中、時間や場所の分散によるあいさつ運動の実施や振り返りカードを活用した家庭との連携などを通して、意識化を図ることができた。

A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」において、児童は99%の肯定的回答率であるが、保護者は68%で指標を下回っている。「なんでも相談」や「毎月のアンケート」を活用し、早期発見に努めた。今後もあらゆる機会を通して、いじめは絶対に許されないことであることを継続的に指導し、人権感覚の醸成にも努めていく。

【健康・体力 総合的な学習・特別活動について】

A6「児童は、健康や安全に気をつけて生活している。」において、児童・保護者ともに肯定的回答率が90%以上であった。感染症対策の徹底、毎日の健康観察や適宜の安全指導、保健だよりや食育だより、ホームページ等を通じた啓発活動を実施した。今後も家庭と連携を図りながら、スマホ・ゲーム等の利用時間と睡眠時間の確保についても継続して指導していく。

A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」において、児童の肯定的回答率は83%で指標を上回った。「宇都宮学」が導入され、少しずつ意識は高まっているが、教職員・保護者の肯定的回答率はまだ低いため、社会科や生活科・総合的な学習の時間における郷土学習の充実にも努めていく。

A12「児童は『持続可能な社会』について、関心をもっている。」において、児童の肯定的回答率は88%で指標を上回った。一方で教職員は56%と数値が低い。これは指導していくにあたり、自身の知識や指導方法等を向上させる必要性を感じているためと思われる。

7 学校関係者評価

- ・コロナ禍の状況で、学校理念にある「安心、安全に生活できる楽しい学校」を実現するにあたり、授業のスタイルの変化、コミュニケーションの取り方の工夫など、大変な苦労の一年であったと思う。
- ・昨今の状況下、子どもたちが毎日登校し、学習や生活が送れるよう環境を整えてくれていることに感謝する。
- ・小中一貫や地域との関わり等の評価が下がったのは、コロナ禍の影響で仕方ないと思われる。
- ・先生方がもっと余裕をもてるよう、できることを無理せずに行えばよいと思う。
- ・いじめの早期発見ができるよう、相談できる体制づくりの強化を望む。
- ・授業に関わることを以外に、外部人材に依頼できるとよいと思う。
- ・学校側からの声掛けを待っている地域の方も、多いのではないかとと思われる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童が明るくいきいきと学校生活を送ることができるとを旨とし、児童の自己肯定感を高めるための言葉かけや、活動支援を継続して行っていく。
- ・学習指導においては、引き続き感染症対策をしたうえで、効果的なグループ活動や場の設定を意図的に行うとともに、ICT機器の活用についてより効果的な活用について研究を進めていくことで、学びを深める機会の充実に努めていく。
- 「あいさつ」については、肯定的割合が高い。感染症対策を行いながら、本校独自のあいさつ運動（朝のあいさつ運動、あいさつ殿堂入り）や振り返りカードを活用した家庭との連携などに継続して取り組んでいく。
- ・いじめ対策についてはあらゆる教育活動を通じて絶対に許されないことであることを、全教職員が足並みを揃えて継続指導するとともに、アンケート調査、「なんでも相談」「いじめゼロ集会」「ケース会議」などにより、未然防止、早期発見・解決に努める。また、教職員自らの人権感覚の醸成に努める。
- ・感染症対策のため、保護者や地域住民の来校機会の減少が続くことが予想される中、工夫や改善を図りながら、家庭や地域との連携を図っていく。また、学校での取組や児童の様子をホームページ、各種たより等により情報発信していく。
- ・安全な学校環境を整えるとともに、感染症対策についても引き続き、全教職員共通認識のもと、家庭の理解・協力を得ながら徹底して取り組んでいく。